

# 広報あかひけ 6

No.365

発行/赤池町役場〒822-11福岡県田川郡赤池町大字赤池1146番地の1 ☎0947(28)2004 ■編集/総務課

★町の人口★10,276人(+11)男4,815人(-29)女5,461(+40)世帯合計3,596(+39)平成5年4月30日現在( )は前年同月との比較です



## お父さん

## 55あかひけスポーツフェスタ

第32回 町民体育祭 / 町民グラウンド

### 視点

あわてない。あわてない。……。麦の空に雲雀が鳴く。蛙がケロ、ケロと恋を語る。タクシーを降りたおばあちゃんが近づいてくる。膝が悪いのかゆっくくり、ゆっくくりとした足どりである。ひとこ

と、ふたこと言葉をかけると、お茶を一杯呑んで行かんかね。そのことばに甘えて寄り道をした▼おばあちゃんは、今年、九十才。話しをしてみると聡明極まりない。今は、一人暮らしである。長年使い切った膝が痛い。月に一度、上野病院に行く。血液を取って検査をしてもらう。膝以外はすこぶる健康である▼もう何年前か前、耳が聞こえなくなっただけ。子供たちと相談したら、年を取ったら耳くらしい悪くなるのは当たり前よと、しばらくは不自由をした。ある時、通い先の上野病院で看護婦さんに、耳が遠くなってねと云うと、その看護婦さん、私、耳を扱うのが好きなんよちょっと私に見せて▼出るは、出るは、山のような「耳くそ」が、おばあちゃんはこの瞬間、頭の中がパッと明るくなったと云う。ますます進む高齢化社会の流れの中で問われる福祉サービス。九十才の高齢で今なお元気に一人暮らしができるこのおばあちゃん、この看護婦さんをいつまでも、いつまでも忘れることがない。

私たちのモットーです。

# お年寄りのみなさんが 安心して暮らせる まちづくり

人生八〇年の長寿社会を迎えています。赤池町は、国や県の平均に比べて5パーセント程度高く高齢化が進んでいます。この高齢化に対応するために、「老人保健福祉計画」の策定が赤池町にも義務づけられています。その骨格ともなるべき答申が計画策定委員会よりなされました。

急速に進む高齢化のなかで、日常生活に支障のあるお年寄りや身体障害者の人たちに、健全で安らかな生活を送るために援助しているのがホームヘルパー(家庭奉仕員)です。

現在、三〇世帯に日常生活の援助と、一七四世帯に声かけおよび相談・助言活動を行なっています。今回、ヘルパーの1日取材し、その内容の一部を紹介します。



私たちがお世話します  
まちのヘルパーさん

列左より 小松貴さん 有吉さん 田中さん  
亀谷さん  
前列左より 小松秀さん 千代田さん 池田さん

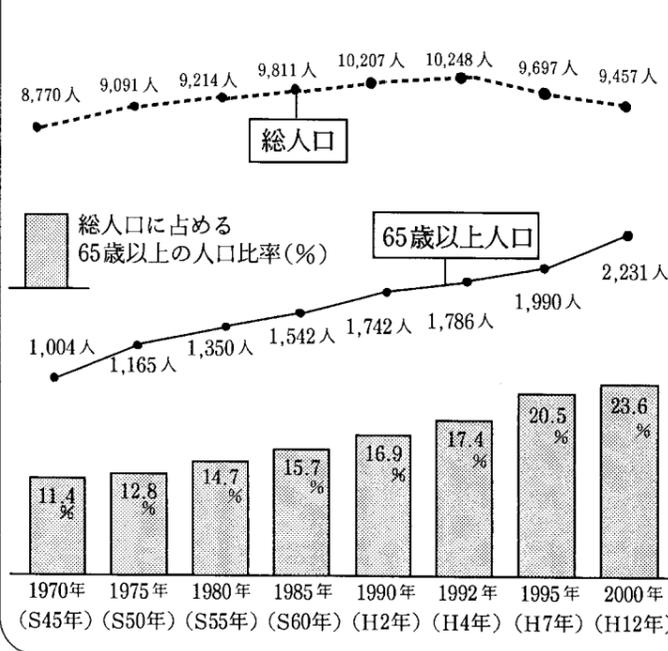
## まちの高齢化は どうなっているのでしょうか

グラフは、一九七〇年からの赤池町の総人口と、65歳以上の人口、そして、総人口に占める比率を示したものです。

65歳以上の人口は、一九七〇年において一、〇〇四人で、すでに11%を超え、高齢化社会に突入し、その後も確実に増え続け、十年後の一九八〇年は、一、三五〇人、さらに十年後の一九九〇年は、一、七三一人、そして二〇〇〇年には、二、三二一人になる見込みです。

一九七〇年と二〇〇〇年の三十年間の比較を見ても、総人口は約七百人、7%の増加に対し、65歳以上の人口は倍以上の約一、二〇〇人、百二十%の増加が見込まれます。町全体の人口に占める割合も確実に上昇を続け、11.4%だった一九七〇年から、三十年後の二〇〇〇年には23.6%に達する見込みです。

赤池町の総人口と65歳以上の人口の推移・推計グラフ



## 娘のような気がします。

〇〇年では23.6%に上昇し、4人に1人が高齢者という超高齢化社会となるのが予測されます。誰にもやってくる「老い」。赤池町では全国よりいち早く高齢化の波がおしよせてきています。

午前9時、ヘルパーのみなさんが勤務する、福祉センターへ。約束の時間は9時30分でしたが、少し早目に役場を出発しました。福祉センターに到着するとヘルパーのみなさんをはじめ職員みんなが掃除の最中です。9時30分、事務室で朝礼です。行先予定表にその日の訪問先など記入し、ヘルパー同志の打ち合わせ、「Bさんのところ寄ってみてね、きのうお風呂入ったやろか?ポイラーも見とっ

ちようどBさんのお友だちと二人で話をしているところです。Bさん宅へは昨日も寄ったそう

で、胸を打って病院に行くのに保険証が判らないとのこと。Bさんの友だちの人が湿布薬をもってきていました。「ヘルパーさんはあっさりしている人。うそをつかない」とBさん。「じゃあまたね」とBさん宅を出たのが正午でした。

## ヘルパーさんを待ってるんです

午後1時、業務再開です。午後からは、ホームヘルパー小松秀美さんと同行です。訪問先は市場の独り暮らしのDさん宅です。Dさん宅に着いて「Dさん、こんにちは。Dさん。家は鍵がかかっています。裏の方に行って声をかけてやっ」と玄関の戸が開きました。Dさんは足腰が弱く、すぐころんでしまうそうです。

台所では焦げた臭いがします。「お昼のおかずを焦がしてしまっ」とDさん。さっそく戸を開け、掃除の開始です。掃除の最中も出来



「ヘルパーさんが来るのを待っているんですよ」と隣の人。次は買い物です。必要な物を聞いてスーパへ出かけます。スーパでは、午前中同行した小松貴



代子さんも来ています。買い物袋を手にDさん宅へ戻り、お金の精算を済ませ、戸締りをして帰ろうとする小松さんに「またお願いします」とDさん。福祉センターに着くと3時すぎで、ヘルパーのみなさんは日報にその日の出来事など記載しています。「このヘルパーサービスは、ただ単なるお手伝いではありません。出来ることは自分でやる、自立をめざすことが大切です。そして、どうしても必要な時は遠慮なく利用して下さい」ときっぱり。このヘルパーサービスは、まさに専門職です。核家族化の進行や、共働きの増加など、社会現象の変化の中で、福祉ニーズは複雑多様化しており、適切な対応が求められます。「タダだからよい」のではなく、「共に生きるため、自立と社会参加を求める」このことが必要であると思います。若い人たちも「老い」について考えてみませんか。(資料は答申書による)

「ヘルパーさんが来るのを待っているんですよ」と隣の人。次は買い物です。必要な物を聞いてスーパへ出かけます。スーパでは、午前中同行した小松貴



てね」「Cさん少し痴呆性がでようヨ」など細かなところまで打ち合わせが続きます。

担当地区と仕事内容が二段階に分かれています。日常生活の援助を行なう仕事。これは、買物や清掃、体ふき、着替え、食事の準備、健康チェック(血圧測定)などで、概ね四世帯から五世帯を一人で見守っています。

つぎに声かけや相談・助言を行なう仕事。これは安否確認を中心に行なっています。一人二十四世帯から二十八世帯を受けもっています。



「私は自殺も考えたこともあったが、ヘルパーさんが来てくれるので頑張っている。娘のような気になります」とAさん。血圧測定や次の買い物のことを聞いてAさん宅を出ました。「お昼まで少し時間があるのでB

10時、いよいよ出発です。ヘルパーの小松貴代子さんに同行し、まずは上野のAさん宅を訪問しました。

「こんにちは、Aさんおる?」と元気な声で家の中へ入っていきます。Aさんは72歳、55歳のときに胆石の手術をされ、その後も乳房の手術をされるなど苦労されました。「病気が憎い」とAさん。現在は左半身が悪く、ベッドでの生活です。

ヘルパーの小松貴代子さんは、Aさんと話をしながら、シーツの交換や、お湯での体ふき、部屋の掃除など、てきぱきと行なっています。

「お昼まで少し時間があるのでB